

カレード通信 Vol.55

2022年
5月号

小澤館長のコラム Vol.11

「カレードのキャラクターには名前がない」その理由は「公募するから」

(私が個人的に) 待ちに待ったカレードのキャラクターができました！今までいなかったのが不思議なくらいですが、おそらく「のっティ」に気を使っていたのでしょう。のっティ大好きだから取敢えて言いますが個人的にはのっティよりかわいいと思っています。PRキャラクターというものは皆さんの頭にしっかり焼き付けてもらわなければいけません。そのために必要な要素は「とにかく目立つ(良くも悪くも)」か「とにかくかわいい」だと思います。カレードのキャラクターは圧倒的に後者で勝負しています。名前は公募なのでもちろん私も応募します。(つづく)



日	月	火	水	木	金	土
1 KSCおはなし会	2	3 赤ちゃんおはなし会	4	5 KSCおはなし会	6	7 陶芸教室 1年生向けおはなし会
8 カレードシネマ	9	10	11	12	13	14 陶芸教室
15 こどもおはなし会 料理教室	16	17	18	19	20	21 陶芸教室
22 かがく実験教室	23	24	25	26	27	28 陶芸教室 市民歴史講座
29	30	31				

図書館展示情報

一般展示 悠久の歴史を訪ねて城

47都道府県に存在するお城みなさんも一度は足を運んだことがあるのではないのでしょうか。天守、石垣、堀、門、櫓、歴史、城下町... 知識を深め、穏やかな気候の中、お城巡りを楽しんでみませんか？



児童展示 おおきい、ちいさい

おおきいこと、ちいさいこと、それぞれの素敵なおおきいところを感じながらおはなしを楽しんでください。

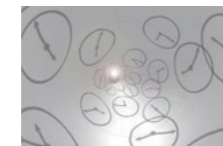


このほか館内の様々な場所でも展示をしています。ぜひこの機会にお立ち寄りいただき、色々な本と出会ってください♪

最新情報はコチラから！

YA展示 さて、時間とはなんなのか？

6月10日「時の記念日」にちなみ、ヤングアダルト(YA)コーナーでは「時間」にまつわる本を展示しました。「時間を上手に使えるようになりたい!」「タイムトラベルをしてみたい!」「そもそも時間ってなんだろう?」などなど...、いろいろな本があなたのお越しを待っています!



5月カレードイベント情報!

カレードキャラクター愛称募集 『私に名前をつけてね!』

カレードに新キャラクターが登場! 名前がまだないので、みんなで考えてあげてね! 採用された方には、プレゼントがあたるかも...?

受付期間: 4月28日(木)~5月24日(火)
投票期間: 6月2日(木)~6月14日(火)
結果発表: 7月1日(金)~7月31日(日)

応募用紙は、カレード館内にあります。応募していただいた方には、キャラクターシールをプレゼント!(1人1点まで) ぜひ応募ください!



※詳細は館内チラシをご確認ください

市民歴史講座 高尾城あります! 「加賀藩の古城館跡調査 ~古文書から垣間見る調査風景~」

日時: 5月28日(土) 14:00~15:30 (13:30開場)
会場: 研修室・会議室
定員: 25名(要申込み)
講師: 麦居 和真氏(加能地域史研究会会員)
申込: 参加無料。カレードにご来館、もしくはお電話でお申し込みください。

※イベントは変更・中止となる可能性があります。予めご了承ください。

カレードシネマ「バックドラフト」

日時: 5月8日(日) 13:30~16:00 (13:00開場)
会場: 音楽スタジオ
定員: 20名(当日先着順)/予約不要・参加無料
作品: 「バックドラフト」(1991年製作・137分) 日本語吹き替え版

“バックドラフト現象”を利用した事件が多発する中、消防士一家に生まれたスライアン少年は、兄へのコンプレックスを感じながらも、事件の真相を突き止めようと奮闘していく。消防士として、1人の人間として、自分には今何ができるだろうか。兄弟の絆の物語を、ぜひご覧ください。

レファレンス担当からのお知らせ

パスファインダーができました!



パスファインダー(pathfinder)とは、「道(path)」を「見つける人(finder)」という意味です。あるテーマについて調べる時に、役立つ資料や情報の探し方を紹介した手引きで、調べものの参考になります。今回は「椿・椿まつり」というテーマで作成しました。レファレンスカウンターにて配布しております。ぜひお手に取ってご覧ください!

今月のおすすめ本 『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』

著者: 川内 有緒 出版社: 集英社 分類ラベル: 706.9/カ

全盲の美術鑑賞者・白鳥建二さんと著者・友人たちが美術館を巡り、多くの気付きを与えてくれるノンフィクション作品です。白鳥さんは晴眼者(目の見える人)との対話を通して作品をみるのです。つまり白鳥さんは「耳」で見るとのこと。アテンドとして白鳥さんと一緒に時は、自分が見て感じたこと、思ったこと、様子等を自分の言葉で伝えます(その人がその人のままで見る)。そうすることによって、自分が今まで見えなかったことや、思い込み・勘違いに気付かされたりします。そして、一緒に楽しませてくれて「ありがとう」という気持ちにさせられます。これは白鳥さんにとって“助ける人”“助けられる人”“感謝する人”“感謝される人”という固定された関係を「ありがとう」とお礼を言われたことによって言われる側に逆転した瞬間だ。”と表現されています。見える人と見えない人が一緒に作品を見ることのゴールは作品のイメージを一致させる事ではなく対話を楽しみ笑顔で同じ時間を過ごすことだと気付かせてくれます。白鳥さんは、視覚障害のある人とない人が一緒に鑑賞するワークショップやツアーに関わるようになって20年経つそうです。読み終えた時に、同じ絵画・仏像・現代美術を鑑賞したような気になり、これぞまさに「体験型読書」。ぜひ、白鳥さんと一緒に鑑賞の旅をお楽しみください。

こちらの本は、カレードと富奥公民館に1冊ずつ所蔵しています。